

宝彩有菜の

# バガヴァッド・ギーター

第1回「クシャ草って何？」

text: 宝彩有菜

<はじめに>

古代インドの世界的な古典に「マハーバーラタ」と「ラーマーヤナ」があります。どちらも、古代の大叙事詩で、多くの戦いや神々が登場します。紀元前に成立していたようですが、今もって、その内容が面白いので、多くの人々に読み継がれています。

「バガヴァッド・ギーター」は、「マハーバーラタ」の中の第6巻「ビーシュマ巻」に収められる約700偈(18章)よりなる詩篇の部分です。

「アルジュナ」という青年が、戦いに出陣する時に、従者であり、かつまた、神でもある「クリシュナ」にいろいろ心や修行のことについて聞く部分です。長い長い物語のほんの一部です。

この時の「アルジュナ」の問いに対して「クリシュナ」の一つ一つの丁寧な答えは、それがそのまま修行の解説、教えになっています。修行の意味や目的、方法のみならず、具体的な瞑想の実践の方法等も詳しく述べられています。

さっそく、ひとつ見てみましょう。こんな感じです。

● ヨーガを実修する人は人里離れた所に行き、地面にクシャ草をしいて、その上に鹿皮と柔らかい布をかぶせる。座は高すぎず、低すぎぬように—それを神聖な場所において、そこにヨーギーはしっかりと座を組み心と感覚を統御して心意識(ハート)を清め精神を一点に集中して修行する。

これは、「バガヴァッド・ギーター」第6章の11番と12番です。(田中かん玉氏訳)

「ヨーガ」というのは、精神修行とか、瞑想とかの修行のことで、「ヨーギー」とは、修行者のことです。

同じ個所を、辻直四郎氏は、次のように訳しています。

● 清浄の所において、自己(atman)のために、高きに過ぎず、低きに過ぎず、布、皮、クシャ草を敷き重ねたる堅固の座を設けて、その座に坐し、「意」(manas)を一境に集中し、心(citta)と感官との活動を統御し、アートマン(自我)の清浄のために、ヨーガを修練すべし。

これは瞑想の作法である座法の説明ですが、「バガヴァッド・ギーター」には、他にも、集中の仕方であるとか、執着の離し方であるとか、修行の項目として大切なことがアチコチに出てきます。

「バガヴァッド・ギーター」の瞑想の修行についての記載箇所は、このように具体的ですから、我々にも大いに参考になりそうです。

そこで、特に瞑想の修行に関して我々にも参考になる箇所を紹介しながら、その知識やノウハウを、「宝彩BBマガジン」で解説していきたいと思います。

題して「笑雲のバガヴァッド・ギター解説」。解説は笑雲先生、お相手は例によって小松茸君にお願いします。

では、さっそく、第一回を開始してもらいましょう。

<笑雲のバガヴァッド・ギター解説(その1)>

「笑雲先生」

「なんだい、小松茸」

「いよいよ、バガヴァッド・ギターの解説が始まりましたね」

「ああ、そうだね。長いから、どんどん解説していこう。楽しみだね」

「でも笑雲先生、同じ原文のバガヴァッド・ギターでも、訳者が異なれば、随分、訳が違いますね」

「そうだね。いろいろ違う。まだ、他にこんなものもある」

● ヨーギーの座る場所は堅固で、高からず、低からず、清潔な場所でなければならない。まず、神聖な草を敷き、次に鹿の皮をおき、その上に布を敷かなければならない。ここに座り、感覚と空想をおさえて心を一点に集中させる。このように瞑想すればヨーギーの心は清らかになる。(熊沢教眞氏訳)

「なるほど。さまざまですね」

「そうだね。英訳や中国語訳なども、世界中にはさらに多彩な訳がある」

「同じ日本語でも、心といたり、精神といたりいろいろ変化しますね」

「そうだね。心の中のことは分かりにくいから、それを訳すときに、訳者の理解度とかそんなものも関係してくるからね。そのような言葉はさまざまに変化することになりやすい」

「そうですね。でも、笑雲先生、クシャ草、鹿の皮、布の三点セットは、不変ですね」

「ああ、そうだね。これは、英訳や中国語訳でも、不変だ。外から見えるものだし、定義が間違ふこともない。意識もできない」

「なるほど。だから、二千数百年を経ても変わらないってことですか」

「そうだね。皮肉なことだね」

「なにが、皮肉なのですか？」

「ああ、クシャ草、鹿の皮、布の三点セットは、時代や文化が進めば変わっても良いものだ。もっと、合理的な軽い堅牢な座布団とかができればそれに乗り換えれば、さらに瞑想の修行に良い。だから、変わっても良いものだ。しかし、その記述は後生大事に二千数百年も変わらない」

「ああ、なるほど」

「しかし、だ。心を集中するとか、精神を統一するとか、浄化するとか、清らかになるとか、同じ時代で、同じ原文をもとにしても、すぐに言い方が微妙に変わってくる」

「そうですね。今見た分でも、あっという間に、何通りもできていますね。鹿の皮は変わっていないけど」

「そうだ。これが、言語が違って、時代がいく時代も経てくと、ますます、その違いが広がってくる」

「まあ、そうですね」

「すると、結局、目に見えるもの手に触れるものは正確に伝わっているが、肝心な心の中のことは、不正確に伝わっているという結果になる」